

史 跡 斎 宮 跡

平成9年度現状変更緊急発掘調査報告

平成11(1999)年3月

明和町教育委員会

序

史跡斎宮跡が国史跡に指定されたのは、昭和54（1979）年3月27日であり、この3月でちょうど20年経過いたしました。この間、史跡斎宮跡の町並み風景や環境は随分変わったように思えます。

指定された当時は、斎宮歴史博物館や斎王の森などの史跡公園は農地であり、幹線道路以外はほとんどが未舗装でした。しかし、20年間で斎宮小学校の校舎・体育館・プール等が整備され、上水道や側溝の新設、道路の舗装及び拡幅などの生活環境整備も随分進みました。また、史跡保存のために近鉄線路北側で行っている公有化事業も土地所有者の協力のおかげをもちまして、10年度末で約24.1haに達し、面的にまとまった部分については、隨時史跡整備等が行われてきたところです。中でも平成13年度完成を目指して近鉄斎宮駅北側の内山・上園地区約6.5haで実施しております「歴史ロマン再生事業」は、体験学習施設と史跡全体の1／10模型の施設を中心とした史跡整備で、斎宮歴史博物館と異なった体験型の施設であります。さらに、今年10月には、体験学習施設が他の施設に先立って開館することが決まっており、現在その準備が着々とすすめられ、町をいたしましても大変期待しているところであります。

さて、このように着々と斎宮跡の保護・保存・活用が進められている一方で、137haに及ぶ広大な史跡内に約600世帯に及ぶ住民が生活していることから、生活に結びつく現状変更等許可申請が毎年数多く提出されます。

この報告書は、平成9年度に45件提出された申請の中で事前調査が必要であった6件について結果をまとめたものであります。現状変更に伴う調査は、第123-1次調査と第123-6次調査以外は、側溝や水道管布設工事に伴うもので幅が狭く細長い限定された調査で詳細を把握しにくいものであります。小規模な調査であっても、成果の積み重ねが斎宮跡の全貌をより鮮明にするものと思っております。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者のみなさま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究課の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成11（1999）年3月

明和町教育委員会

教育長 中 山 正 美

例　　言

1 本書は、明和町教育委員会が平成9年度に実施した史跡斎宮跡の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。

なお、第123-1・6次の発掘調査は国庫及び県費の補助金の交付を受けて実施したものであり、第123-2～5次の調査は、原因者が費用を負担して実施したものである。

2 調査は明和町教育委員会が調査主体となり、斎宮歴史博物館調査研究課及び明和町教育委員会斎宮跡対策課が担当した。

3 遺構の実測にあたっては、国土調査法による第VI座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。

4 遺構の時期区分は、「斎宮跡の土師器（三重県斎宮跡調査事務所年報1984）」による。

5 遺構表示記号は、次のとおりである。

S B ; 壁穴住居・掘立柱建物 S K ; 土坑 S D ; 溝

6 特に標示がない限り、遺物の実測図は実物の4分の1、遺物写真は約3分の1である。

7 調査の実測図・写真等の関係書類及び出土遺物は、斎宮歴史博物館で保管している。

8 現地の発掘調査及び本書の作成には、斎宮歴史博物館調査研究課の駒田利治、上村安生、大川操（旧姓赤岩）、角正芳浩、石潤誠人と明和町教育委員会斎宮跡対策課の中野教夫、西尾仁志があたり、熊崎司（京都府立大学々生）の参加を得た。

また、遺物整理等に当たっては島村紀久子、西村秋子、角谷和代、杉原泰子及び松月浩子、八木光代の協力を得た。

目 次

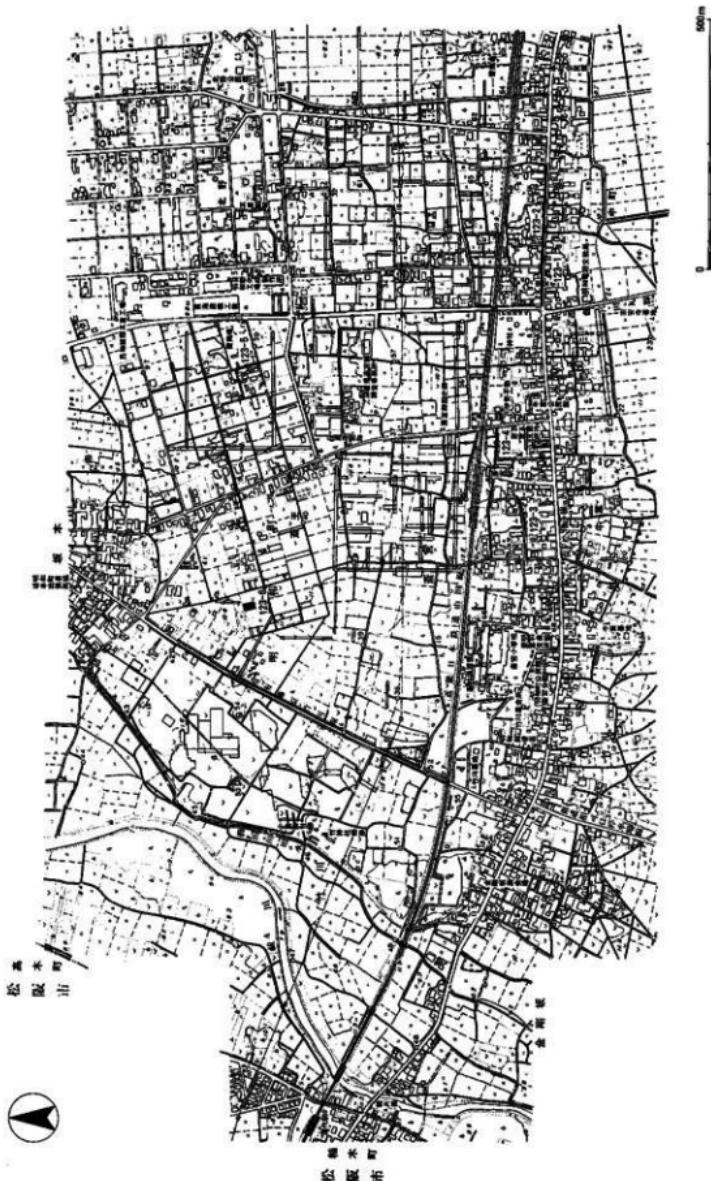
1 前 言	1
2 第123-1次調査	2
3 第123-2次調査	3
4 第123-3次調査	3
5 第123-4次調査	5
6 第123-5次調査	7
7 第123-6次調査	8
付篇 史跡現状変更等許可申請	12
報告書抄録	17

表・挿図目次

[表] 1 史跡現状変更等許可申請の推移	1
2 平成9年度現状変更等許可申請一覧表	13
3 遺物観察表	15
 [図] 1 発掘調査地位置図 (1:10,000)	
2 第123-1次調査 調査区位置図 (1:5,000)	2
3 タ 造構実測図 (1:200)	2
4 タ 遺物実測図 (1:4)	2
5 第123-2次調査 調査区位置図 (1:5,000)	3
6 タ 土器実測図 (1:200)	4
7 第123-3・4次調査 調査区位置図 (1:5,000)	3
8 タ 造構実測図 (1:200)	6
9 第123-5次調査 調査区位置図 (1:5,000)	7
10 タ 造構実測図 (1:200)	7
11 第123-6次調査 調査区位置図 (1:5,000)	8
12 タ 造構実測図 (1:200)	9
13 タ SK8039遺物出土状況実測図 (1:20)	10
14 タ 遺物実測図 (1:4)	11

写 真 図 版

P L 1	第123-1次調査	上 ; 調査区全景	下 ; S D 8026
P L 2	第123-3次調査	上 ; 調査区全景	下 ; S D 8030
P L 3	第123-4次調査	上 ; 調査区全景	下 ; S B 8032
P L 4	第123-5次調査	上 ; 調査区全景	下 ; S D 8034
P L 5	第123-6次調査	上 ; 調査区全景	下 ; S B 8037
P L 6	第123-6次調査	上 ; S B 8038	下 ; S K 8039
P L 7	第123-6次調査	出土遺物	



第1図 発掘調査地位置図 (1:10,000)

1 前 言

斎宮跡では史跡指定以来毎年50件ほどの現状変更が申請され、指定19年間で総計890件の件数となっており、その内194件について発掘調査を実施している。平成9年度は例年より比較的少ないと云え、45件の申請が提出された。その内容は、史跡内住民による住宅や農用倉庫の増改築とともに、上水道や排水溝及び道路の改修、新設等であり、許可条件に応じて事前の発掘調査あるいは工事立会いを実施している。しかしながら、調査箇所が限定される等問題点も残されている。ここに報告する緊急発掘調査は、個人の用に供する盛土及び空き地の雑草対策で補助対象事業となった2件と生活環境整備にかかる公共事業4件を原因者負担として発掘調査を実施したものである。

第123-1次調査は、旧参宮街道沿いで実施した調査であり、旧参宮街道の南側溝にあたる、16世紀の遺物を出土する溝を確認し、この街道の変遷の一端を明らかにし得た。

第123-2次調査は、旧参宮街道北端に埋設された水道管の老朽化の布設替工事に伴う調査であり、これまでの工事等で遺構面は攢乱されていた。調査は、現地表から1.4mの深さまで行い、史跡内における調査例の少ない当該地域内の東西方向の遺物包含層・地山層の傾斜を確認することができた。

第123-3・4次調査は、斎宮駅前の住宅密集地での排水路の改修に伴う調査で、溝等を確認した。

第123-5次調査は、史跡北部で実施した排水路の新設に伴う調査であり、史跡北部を巡る鎌倉時代の大溝の一部を確認することができた。

第123-6次調査は、史跡北西部の「歴史の道」沿いで実施し、史跡西部で確認されている奈良時代の堅穴住居1棟・掘立柱建物1棟のほか、時期が特定できない円形周溝1基・溝4条が検出され、当該地区が奈良時代を中心に遺構が広がっていることが確認された。

これら史跡現状変更に伴う緊急発掘調査は、様々な制約から必ずしも充分な調査とはいせず、遺跡の保存にとっても少なからず問題を抱えているが、斎宮跡の解明にとっては大きな一助となっており、調査上の制約や調査実施上の困難さを解決する必要がある。
(駒田利治)

年 度	現 状 変 更 申 請 数	発 挖 調 査 件 数	調査面積 (m ²)	補 助 金 事 業 調 査 件 数	補 助 金 事 業 調 査 面 積 (m ²)
S. 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H. 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	45	6	832	2	452
合 計	890	194	48,833	132	19,042

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

2 第123-1次調査 (6 AFQ-A)

調査場所 多気郡明和町斎宮字中西592番地
 原因 インターロッキングの布設
 調査期間 平成9年12月16日～12月25日
 調査面積 45m²

1) はじめに 今回の申請は、県道伊勢小俣松阪線沿いの雑種地にインターロッキングを布設するものである。当該地域では第81-5次調査（平成元年度）など現状変更に伴う事前調査が部分的に行われているが、遺構・遺物の実態がほとんど把握されていない。

2) 調査概要

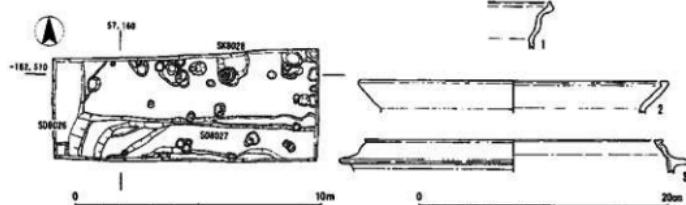
イ 遺構 調査区は県道沿い（旧参宮街道）に東西約10.5m、南北約4mで設定した。遺構面までの深さは西側で約0.5m、東側で0.6mであった。検出した遺構にはSK8028、SD8026・8027がある。SD8026は調査区の西端で南から東へ鍵の手状に曲がる溝である。溝の幅は全体を完掘していないため不明であるが、深さは調査区の南端で検出面から約1.2mである。溝の断面は逆台形と想定される。SD8026が埋まった後の遺構にはSD8027とSK8028があるが時期は不明である。

ロ 遺物 SD8026の最下層から15世紀後半から16世紀前半（伊藤編年第4段階c・d型式、伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』vol.1 三重歴史文化研究会 1990）の土師器鍋（1・2）、羽釜（3）の破片が少量出土している。この他、遺物包含層からは土師器皿・鍋、天目茶碗・志野丸皿などの施釉陶器が出土しているが、その量は整理箱3箱と少ない。

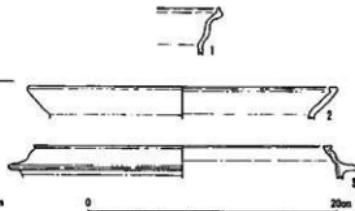
ハ まとめ 今回の調査では溝2条と土坑1基を確認した。その他、柱掘形と思われる小穴を確認しているが建物としてはまとまらなかった。鍵の手状に曲がるSD8026は現在の道の方向と一致しており、その性格が注目される。今後は周辺地域での発掘調査の進展とともに資料の蓄積と遺構の性格を解明していく必要がある。
 (上村安生)



第2図 第123-1次調査 調査区位置図 (1:5,000)



第3図 第123-1次調査 遺構実測図 (1:200)



第4図 第123-1次調査 遺物実測図

3 第123-2次調査（6AFN他）

調査場所 多気郡明和町斎宮字中西・笛川地内
原 因 水道管埋設工事
調査期間 平成10年1月19日～2月7日
調査面積 188m²

- 1)はじめに 本現状変更是、老朽水道管の布設替工事に伴うもので、幅約0.65m×延長409.7m、深さ約1.4mの規模を行った。また、この旧参宮街道路面下にはNTTの旧ケーブルが埋設されている。周辺地区的調査結果から、本工事が遺構面へ影響を及ぼすことが判明しているもののNTTの旧ケーブル埋設時に機乱を受けていることが想定され、東西方向の掘削部分約290mについて工事立会い調査を実施し、土層断面図の記録を行つたものである。

- 2)調査概要 今回の調査範囲において、遺構検出面が確認された地点はごくわずかであった。基本的にはNTTの旧ケーブルが現況路面下約1.0mに埋設されており、地山面の検出深度と同レベルであるため、大半の旧表土及び遺物包含層は攪乱されていた。途中NTTの旧ケーブルの埋設ラインと今回の計画掘削ラインとがわずかにずれる部分には、地山上に約0.2m前後の遺物包含層が確認できたが、遺構・遺物を検出するには至らなかった。

- 3)まとめ 今回の調査では遺構は検出し得なかったが、調査地の少ない旧参宮街道以南においておおよその遺物包含層及び地山面のレベルについて記録することができた。斎宮跡で多くみられる橙色粘質土の地山面がその下層の砂疊層の起伏によってかなり断片的にしかみられないことが判明し、今後の調査における目安になる。
(大川 操)

4 第123-3次調査（6ADP-F・G・H・L）

調査場所 多気郡明和町斎宮字牛葉地内
原 因 町道既設側溝の改修
調査期間 平成10年2月2日～2月4日
調査面積 27m²

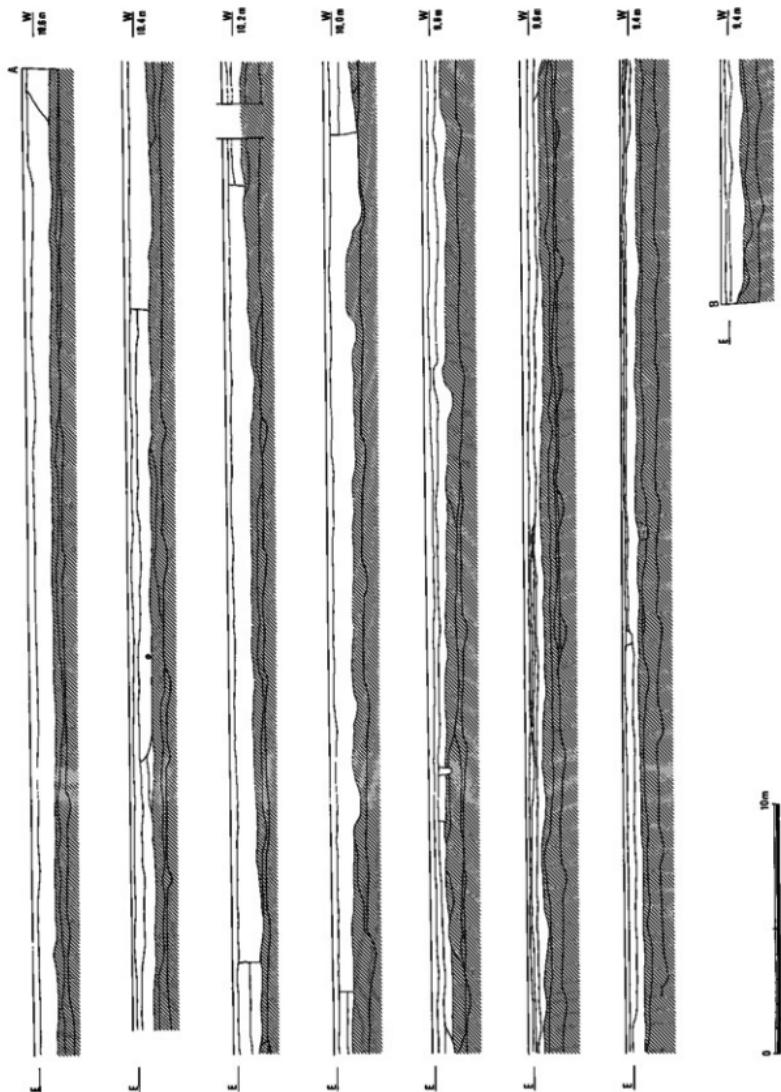
- 1)はじめに 今回の調査は、昨年度行われた第117-4次調査に引き続き、近鉄斎宮駅南側の住宅密集地において町道15号線地内の既設U字溝の改修に伴い実施された。当該地域周辺では、これまでに現状変更に伴う事前調査が行われているが、小規模な部分的調



第5図 第123-2次調査 調査区位置図(1:5,000)



第7図 第123-3・4次調査 調査区位置図(1:5,000)



第6図 第123-2次調査 土層実測図 (1:200)

査であるため遺構・遺物についての詳細がほとんど把握されていない地域である。

2) 調査概要

イ 遺 構

調査区は、側溝の改修に伴う掘削の範囲にあわせ、幅約0.7m、総延長約39mに設定した。遺構は、現況道路面から約0.3m～0.5m掘り下げた地山面で検出した。調査区中央付近は後世の擾乱によって遺構の残存状況は悪い。

検出した遺構には溝3条がある。SD8029は、調査区西半で検出し、溝の肩を確認したのみで、規模や時期などは不明である。遺物は出土していない。

SD8030は調査区中央付近で調査区を斜めに横切る。検出面からの深さは約0.3mである。SD8031は調査区東部で検出した溝でSD8030に並走する。検出面からの深さは約0.4mと他の溝と比べ深い。SD8030とSD8031の溝方向は、方格地割とは異なる。

ロ 遺 物

SD8030とSD8031から土師器杯・甕の小片や山茶椀片、土錘1点が出土しているが全体で整理箱1箱と少ない。

ハ まとめ

今回の調査では溝3条を確認したが、調査の範囲が狭いために遺構の性格を明らかにすることはできなかった。今後の調査による資料の蓄積に期待したい。(角正芳浩)

5 第123-4次調査(6ADQ-F・G・H・L)

調査場所 多気郡明和町斎宮字牛葉地内

原 因 側溝布設替工事

調査期間 平成10年1月27日～3月18日

調査面積 55m²

1)はじめに

今回の調査は、近鉄斎宮駅から東に向かう町道側溝を、既設のものより容量の大きいものに布設替するに伴った立ち会い調査を行ったところ遺構の存在が確認されたために実施した。近鉄線南側に位置する当該調査区周辺では、これまでに、第31-1次(昭和55年度)、第37-11次(昭和56年度)、第64-9次(昭和61年度)調査などが行われているが、内山東区画内については明らかにされていない。今回の調査では、内山東区画東辺道路及び西側道路側溝の検出が予想される。なお、当該地域周辺では縁釉陶器の出土量の多いことが特色としてあげられる。

2) 調査概要

イ 遺 構

今回の調査区は、側溝設置によって掘削される幅約0.7m、総延長79mについて立会い調査を行ったところ、西半約39m分で遺構が確認されたため発掘調査を実施した。東側については既設側溝埋設時に遺構面が破壊されており、予想された道路側溝も破壊されたものと考えられる。

遺構は現況道路面から約0.5m～0.6m掘り下げた黄褐色粘質土層で確認した。検出した遺構には掘立柱建物1棟、溝4条がある。

SB8032は調査区西端で1間分を検出した、柱掘形は全体を検出したわけではないが1辺約65cmの方形と考えられる。柱痕跡は径約20cmで検出面からの深さは0.25mである。規模・棟方向等は不明。柱掘形から平安時代後期の土師器杯片が出土している。

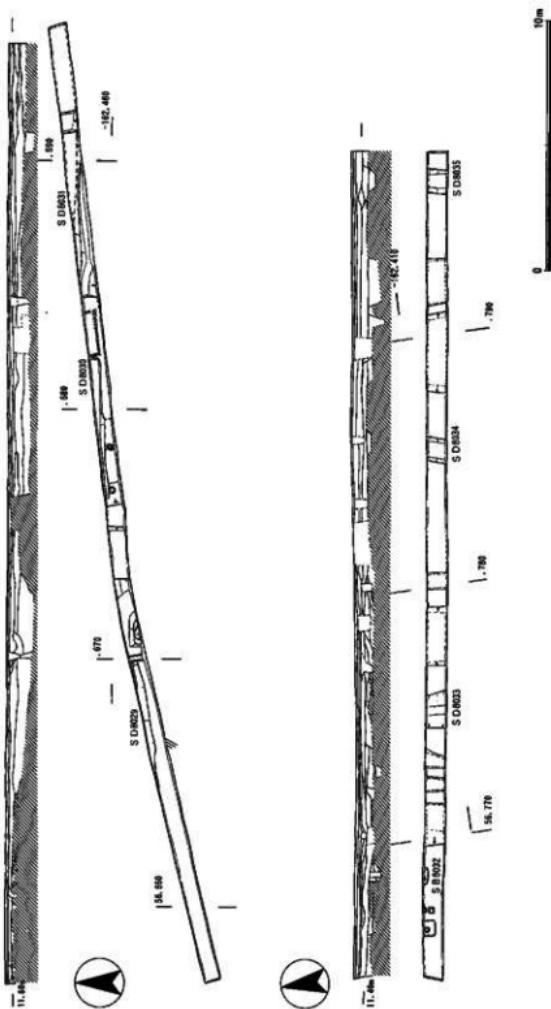
SD8033～8035は幅約0.5m～1.0m、検出面からの深さ約0.2m～0.4mである。いずれも南北溝と考えられ、調査区外へ続く。土師器小片が出土しており、平安時代後期の遺構と考えられる。

口 遺 物

各遺構からの遺物の出土は整理箱1箱と極めて少なく、土師器杯、灰釉陶器、山茶椀の破片、及び綠釉陶器片2点、土錐1点などが若干みられる程度である。

ハ まとめ

今回の調査では、平安時代後期の掘立柱建物を検出し、当該地域にその時期の遺構が存在することが確認された。
(角正芳浩)



第8図 第123-3次（左）第123-4次（右）調査 遺構実測図（1：200）

6 第123-5次調査 (6 AEE)

調査場所 多気郡明和町斎宮字楽殿・刈干地内
原因 新設側溝の布設
調査期間 平成10年2月2日～2月18日
調査面積 87m²

1)はじめに 本現状変更是、史跡北東部の住宅密集地内を南北に走る幅2.75mの町道中央に雨水対策として側溝を布設するものである。工事延長110mのほぼ中央が史跡の境界線になつてゐるが、取り扱いが異なるものの史跡との関連性があるため、史跡外北側56mも同時に調査を行つた。

2)調査概要

イ 遺構 調査は、側溝布設工事の掘削範囲である幅0.8m、総延長110mのトレーンチで、遺構面までの深さは、道路面から0.3m～0.5mである。

検出した遺構は、史跡北側を東西に走る鎌倉時代の大溝 S D8034のほか土坑3、溝5条、柱穴がある。大溝 S D8034は、史跡区域外で検出され幅2.9m、深さは完掘していないので不明である。

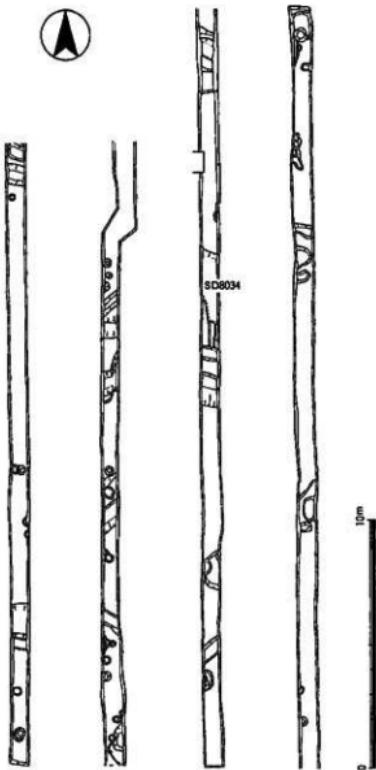
ロ 遺物 各遺構からの遺物の出土は非常に少なく、奈良時代の土師器壺・高杯、平安時代の灰釉陶器碗、鎌倉時代の土師器鍋・皿がみられるだけである。

ハまとめ 今回の調査では、鎌倉時代の大溝 S D8034が史跡の北側を走り、今回調査した区域で指定区域の外へ出てまた入ることが確認ができた。

(中野教夫)



第9図 第123-5次調査 調査区位置図 (1:5,000)



第10図 第123-5次調査 遺構実測図 (1:200)

7 第123-6次調査 (6 ACC-I)

調査場所 多気郡明和町斎宮字塚山3337-1
原 因 資材置場の整地
調査期間 平成10年2月23日～3月18日
調査面積 407m²



第11図 第123-6次調査 調査区位置図 (1:5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、史跡西部にあたる斎宮歴史博物館東で「歴史の道」沿いの北側において、資材置場の整地・盛土が行われるため、発掘調査を計画地全境を対象に実施した。

当該地区では、第33次（昭和55年度）、第41次（昭和56年度）の計画調査と第31-5次（昭和55年度）、第64-3、12次（昭和61年度）等の現状変更に伴う緊急発掘調査が実施されている。これらの調査の結果、当該地区では奈良時代の堅穴住居、掘立柱建物などが多く検出されており、平安時代の初期から中期の遺構は稀薄である。また、第41次調査区では、史跡を巡る鎌倉時代の大溝が確認されている。

2) 調査概要

イ 遺 構 調査区は、近年の盛土が約0.6mなされており、その下層に黒灰色砂質土（旧耕作土）黒色粘質土（遺物包含層）が堆積し、遺構の検出はこの下層の浅黄褐色粘土（地山層）の上面で確認した。なお、この粘土層は薄く、一部には下層の砂礫層が露出しているところもある。遺構の検出レベルは、標高10.3m前後である。

調査の結果、調査区の北部での遺構密度は薄く、調査区中央部から南部分にかけて奈良時代の堅穴住居2棟、平安時代の掘立柱建物1棟、鎌倉時代の土坑1基のほか、平安時代以降の溝・土坑等が検出された。

堅穴住居 S B8036は、調査区北端に位置し、平面形が方形を示すと思われる堅穴住居隅部のみの確認である。土師器皿・甕が出土している。

S B8037は、調査区中央部に位置し、平面形が略方形を示し、東西3.6m～3.8m、南北3.5m～3.6mの堅穴住居で、検出面からの深さは0.02～0.1mである。床面は、黒色粘質土の埋土との識別が困難であり砂礫層の地山面に達している。土師器杯・皿・甕、須恵器蓋・杯が床面近くから出土している。

掘立柱建物 S B8038は、調査区南西隅に位置し、桁行3間分・梁行2間の東西棟掘立柱建物で、桁行は3間以上の建物と考えられる。桁行の柱間約1.7m、梁行の柱間約2.1mである。柱掘形は、0.8mの方形で、柱痕跡を確認できたものでは、推定柱径は22cm～30cmである。時期は、奈良時代に遡る可能性もある。

土坑 S B8039は、東西約2m、南北約2.8mの南北方向に細長い略長方形を示し、検出面からの深さは0.14m～0.18mで、中央部がわずかに凹んでいる。埋土には、焼土と炭化物が北側で部分的に認められた。土師器皿・小皿・羽釜、山茶碗、鉄釘が拳大の川原石とともに出土している。

溝 溝は、数条確認しているが、時期を特定できる出土遺物がない。溝の多くは、東西方向に延びるものが多い。

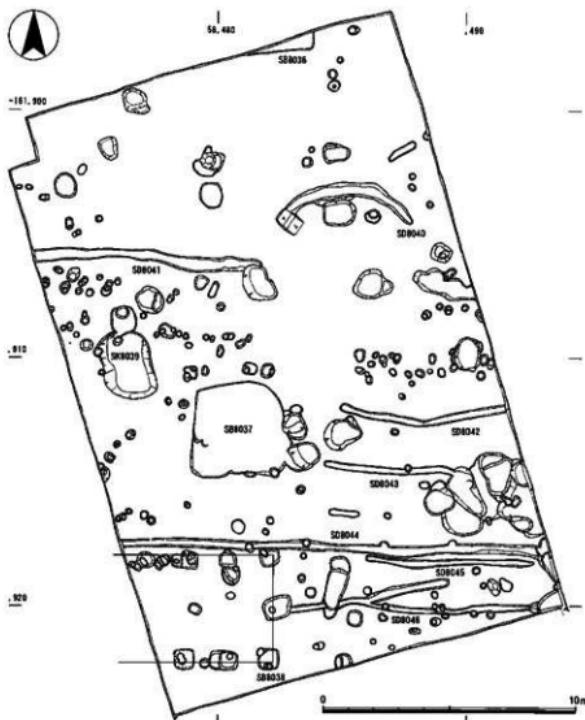
S D8040は、弧状に巡る溝であり、上幅約0.5m・下幅約0.3m、深さ約0.07mの浅い溝で、長さ5.5mにわたり検出した。弧状の直径は、推定8.6mほどになるが、全周は確認されない。黒灰色粘質土を埋土とする。

S D8041は、調査区中央北寄りで検出し、東西方向E0°Wに延びる幅約0.5m、深さ0.1mでわずかに蛇行し、西から約8.5mを検出した。このS D8041の南約11.5mの地点で、この溝と規模、方向を同じくするS D8044がある。S D8044は、遺構の重複関係からS B8038より新しい。

S D8042は、調査区中央南寄りで検出され、幅約0.3m、深さ約0.08mの浅い溝で、東から約6.5mほど延びて途切れる。この溝の南約1.8mには、ほぼ平行するS D8043が検出されており、一对のものと考えられる。

S D8045は、調査区南端近くで検出し、ほぼ東西方向に延び幅約0.25m、深さ約0.08mの浅い溝で、わずかに蛇行している。この溝の南約1.8mには、規模・方向を同じくするS D8046が平行し、S D8042・8043とよく似た状況を示しており、西端もほぼ同じ長さの地点で途切れる。

口 遺 物 土師器杯(1)・皿(2)・甕(3・4)、須恵器蓋(5)・杯(6)が一括出土している。奈良時代SB8037 前期の一括遺物として捉えられる。土師器杯は「粗製椀」であるが、淡橙～浅黄橙色を



第12図 第123-6次調査 遺構実測図 (1:200)

なし、やや褐色が強い。皿は、底部外面をヘラケズリ後ナデで調整する。壺は丸底の壺で(3)は推定口径18cmの中型壺、(4)は口径14.4cmの小型壺であり、体部外面上部をタテハケ・下部をヘラケズリ、内面上部をヨコハケ・下部をヘラケズリする。

蓋付土師器壺

S B8037から出土した、蓋(9)と壺(10)である。蓋は、落とし蓋となり、ユビオサエ後ナデで調整する。壺は、直立する口縁部の端部を内側に折り返す、肩の張った平底で上半部をヨコハケ、下部を横方向にヘラケズリする。形態及び調整手法からみて、鎌倉時代までくだるものと考えられ、遺構の重複があったものと判断せざるを得ない。

SB8036

竪穴住居の一部の調査であるが、土師器皿(7)・壺(8)が出土している。皿は、底部外面をヘラケズリし、ヘラケズリは口縁部近くまで及ぶ。壺は、長胴壺で、体部外面を2段以上のタテハケ、内面下部をヘラケズリする。S B8037と同時期と考えられる。

SK8039

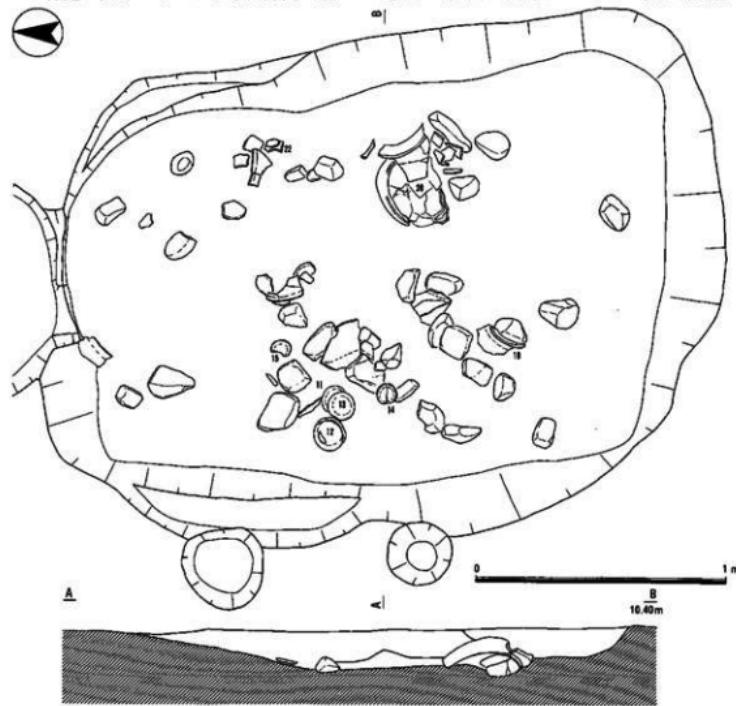
土師器皿・小皿・壺、山茶碗・鉢、砥石が出土している。山茶碗(21)は、胎土の精良な製品で焼成仕上がりも白っぽく東濃産の製品と考えられ、13世紀の一括遺物である。

包含層

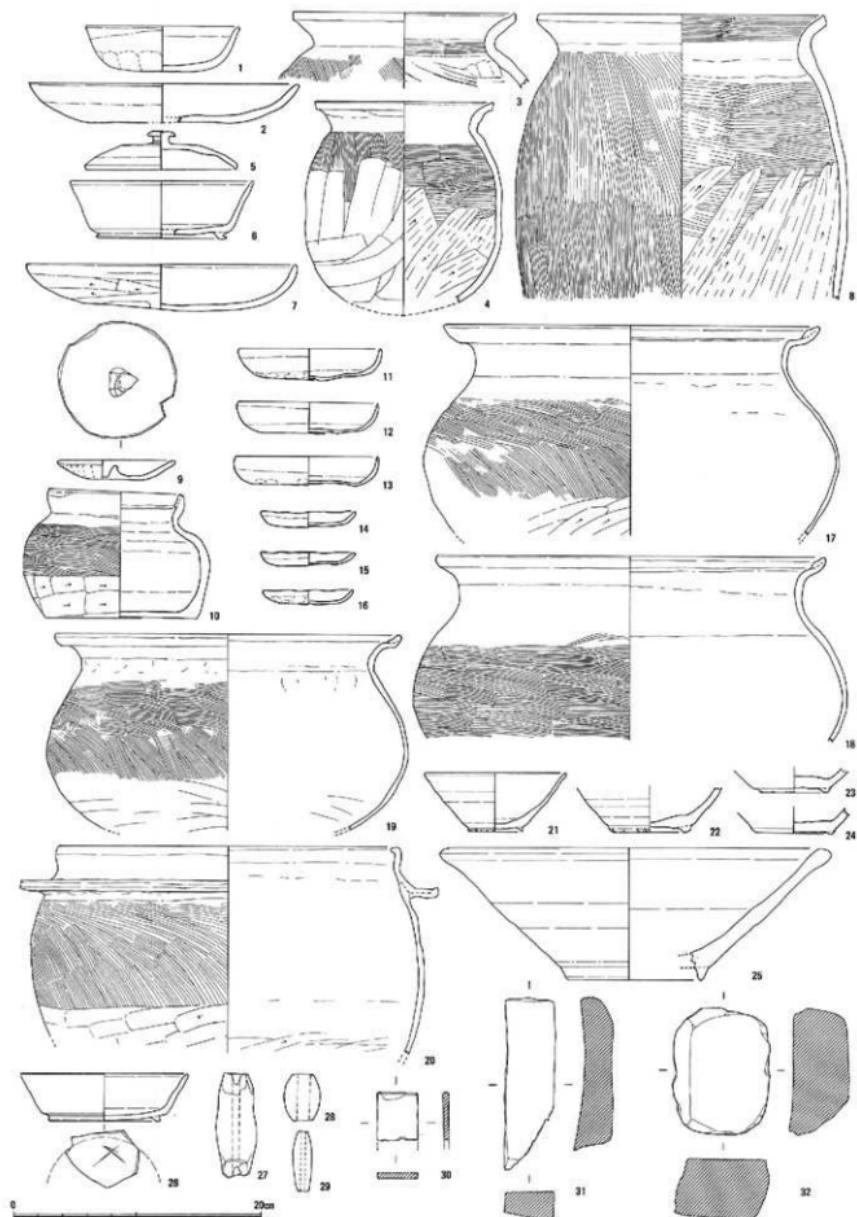
底部内面に「X」印状のヘラ記号をもつ須恵器杯(26)、土錐(27~29)、砥石(30~31)などが出土している。

ハ まとめ

周辺地区的調査と合わせ、史跡西部では奈良時代の竪穴住居が広く分布していることが改めて確認されたが、遺構の密度は必ずしも高いとはいえない。西部地区における竪穴住居の時期的な変遷と構成には、今後の資料の増加をまって検討したい。また、時期の特定が困難であるが、東西方向の溝には地割りの存在を想定させる。(駒田利治)



第13図 第123-6次調査 SK8039遺物出土状況実測図(1:20)



第14図 第123-6次調査 遺物実測図 1~6・9・10:SB8037 7・8:SB8036 11~25・32:SK8039 26~31:包含層

付篇 史跡現状変更等許可申請

平成9年度中の斎宮跡にかかる史跡現状変更等許可申請は、45件提出された。このうち発掘調査を行ったのは、史跡の実態解明のための計画発掘調査が4件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが6件（前年度に提出された申請に伴う第123-3次調査も含む。）あった。

残り35件の内、協議中の2件を除いては、宅地敷地内における住宅の建設など比較的小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないもので、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館並びに明和町教育委員会職員の立ち会いを実施している。

9年度の申請の内容は、一覧表のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）史跡の実態解明のための計画発掘調査を実施するに当たっての申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は24件あった。そのうち保存管理計画における土地利用区分のうえで第三種保存地区に該当する申請は、農業用倉庫や資材置き場造成など5件ある。インターロッキングの布設（第123-1次調査）と資材置き場造成（第123-6次調査）について事前の発掘調査を実施した。なお、共同住宅の建設と農業用倉庫については、協議中である。

他の19件については、個人住宅や倉庫等の建設や付帯工事で土地利用区分の第四種保存地区にあたる。これらは工事立ち会いを条件に許可を得ており基礎の掘削の深さが地下遺構まで達せず、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は13件の提出があり、その内容は、道路の舗装や側溝等の改修が6件、電柱等の設置が2件、水道管の布設替え2件、鉄道や道路の安全施設の設置が3件ある。この内調査が対象となったものは、水道埋設に伴う第123-2次調査と側溝布設替えに伴う第123-4次、第123-5次調査の3件があり、その他については工事立ち会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

史跡の整備及び活用に伴う申請が4件ある。その内容は、整備地に案内等の看板の設置が2件、管理のための施設の設置1件、植栽が1件あり、小規模なものであった。

（D）計画的発掘調査のための申請

これは、三重県教育委員会が調査主体となり、斎宮歴史博物館が担当して実施しているもので4件の申請が提出され、3,323m²が調査された。これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

（中野敦夫）

第2表 平成9年度現状変更等許可申請一覧表

申 請 地	種 別	申 請 者	変 更 内 容	申 請 受付日	許 可 日	変 更 面 積	区 分	備 考
1 竹川字戸戸738	A	鈴木 英行	個人住宅の新築	9. 4. 3	9. 4.22	80.59m ²	3	
2 斎宮字篠林3217-3	A	渡辺 重子	フェンスの設置	9. 4.15	9. 5.13	L=67.6m	3	
3 斎宮字西前沖2504-13, 14	A	中村 義海	個人の倉庫増築	9. 5. 2	9. 6. 2	44.13m ²	4	
4 斎宮字御館地内	C	明和町教育委員会 (斎宮跡対策課)	管理用道路の仮設 畦及び溝の設置	9. 5. 8	9. 6. 2	管理用道路 L= 80m 畦・溝 L=100m	1	
5 斎宮字下園地内	C	明和町教育委員会 (斎宮跡対策課)	駐車場看板の設置	9. 5. 8	9. 6.10	2ヶ所	1	
6 斎宮字牛糞108	A	富山 努 富山 恵子	個人住宅の新築	9. 5.12	9. 7.11	237.86m ²	3	
7 斎宮字篠林3162-3	A	江崎 均	個人住宅の増築	9. 5.13	9. 7.11	62.46m ²	4	
8 斎宮字篠林地内 竹川字東裏地内	B	松阪警察署	交通安全施設の設置	9. 5.13	9. 6.16	2ヶ所	3	
9 竹川字戸戸736, 732-1 - 732-2	A	川本 正武	共同住宅の建設	9. 5.19	協議中	1572.68m ²	3.4	
10 竹川字東裏318-1	A	川本 正武	樹木の植栽	9. 5.30	9. 6.16	38本	2	
11 斎宮字綾治山2740 - 3, 2745 - 2	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	9. 6.10	9. 8.26	697m ²	2	第119次調査
12 斎宮字西前沖2593-4	A	(株)村田組	土間コンクリート打	9. 6.18	9. 6.24	55.0m ²	4	
13 斎宮字笛川2397	A	竹内 重雄	農業倉庫改築	9. 6.17	9. 7.10	39.31m ²	4	
14 斎宮字篠林322-1	A	(有)宇田工務店	給水引き込み管埋設	9. 6.23	9. 7.10	L=2.5m	4	
15 斎宮字塙殿地内	B	明和町(建設課)	既設道路オーバーレイ	9. 7. 8	9. 7.28	L=231m	3	
16 斎宮字中西596-1	A	長谷川 新	個人住宅の新築	9. 7. 8	9. 7.28	95.13m ²	4	
17 斎宮字笛川1065	A	島田 美智夫	個人住宅の新築	9. 7.18	9.12. 3	162.61m ²	4	
18 竹川字南裏地内	B	松阪警察署	交通安全施設の設置	9. 7.30	9. 9. 3	2ヶ所	3	
19 斎宮字篠林3148-3	A	松田 実 翁	個人住宅の改築	9. 9. 1	9. 9.17	60.0m ²	4	
20 斎宮字坂山3337-1	A	林 輝 郎	資材置場の造成	9. 9.17	手続き中	937.0m ²	3	第123 - 6次 第125 - 1次
21 斎宮字柴殿2890-4	A	浅尾 恵次	個人住宅の増築	9. 9.17	9.10.14	10.00m ²	3	
22 竹川字中垣内438-6	A	川本 正武	農業用倉庫の新築	9. 9.19	協議中	66.24m ²	3	
23 斎宮字篠林・宮ノ前・下 園・御館・内山地内	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	9. 9.29	9.12. 3	843m ²	1	第121 - 1~4次 調査
24 斎宮字南裏地内	B	三重県 (松阪土木事務所)	道路側溝の布設替え等	9. 9.29	9.12. 3	L=206m	3	
25 斎宮字西前沖2636-1	A	濱田 次郎	個人住宅の新築	9.10. 3	9.10.29	61.43m ²	4	
26 斎宮字中西地内	B	明和町(建設課)	町道舗装及び側溝布設替え	9.10. 6	9.12.26	L=78m	3	
27 斎宮字塙殿・苅干地内	B	明和町(建設課)	新設側溝布設	9.10. 6	手続き中	L=85m	3	第123 - 5次調査
28 斎宮字中西地内	B	明和町(水道課)	水道管理設工事	9.10. 8	9.12. 2	L=409.7m	3	第123 - 2次調査
29 竹川字中垣内459-1	A	出口 熊	個人住宅新築	9.10.17	9.11.27	77.33m ²	4	

	申 請 地	種 別	申 請 者	変 更 内 容	申 請 受付 日	許 可 日	変 更 面 積	区 分	備 考
30	斎宮字楽殿2882-2・2883-1	B	明和町(水道課)	給水装置の撤去	9.10.23	9.11.25	1ヶ所	3	
31	竹川字古里566	B	日本電信電話㈱ 三重支店	電話柱支線の取り付け	9.10.23	9.12. 9	1ヶ所	3	
32	斎宮字中西592	A	村 田 亜 夫	インターロギング布設	9.10.28	9.12.15	370.46m ²	4	第123・1次調査
33	斎宮字鍛冶山地内	B	近畿日本鉄道㈱	ネットフェンス 橋の建植	9.10.28	10. 3.30	L=90m	3	
34	竹川字南裏254-1	A	樋 口 作 子	樺木の植栽及び除草等	9.11.13	9.11.27	110m ²	4	
35	竹川字古里503	C	三重県教育委員会	看板の設置	9.11.19	9.12. 5	1ヶ所	3	
36	斎宮字鍛冶山地内	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	9.12. 2	10. 2.16	28m ²	3	第122次調査
37	斎宮字内山地内	B	明和町(建設課)	側溝布設替え	9.12. 5	10. 2.16	L=79.0m	3	第123・4次調査
38	斎宮字西加座地内	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	9.12. 3	10. 2.16	805m ²	2	第120次調査
39	斎宮字鍛冶山地内	B	明和町(建設課)	側溝及びガード レール布設	10. 1.13	10. 2.27	側溝 L=8m ガードレール L=15m	3	
40	竹川字古里地区	C	明和町教育委員会 (斎宮跡対策課)	樹木の植栽	10. 1.16	10. 2.25	35本	3	
41	竹川字古里560-1	B	日本電信電話㈱ 三重支店	電話柱の新設	10. 1.21	10. 2.27	1本	3	
42	斎宮字苗川2399-2	A	野 中 芳 明	個人住宅の増設	10. 2.19	10. 3.17	13.44m ²	4	
43	斎宮字中西602	A	山 路 勝 司	駐車場及びブ ロック塀設置	10. 3. 3	10. 3.30	34.8m ²	4	
44	斎宮字牛葉3390-6	A	森 秀 基	個人住宅の建替え	10. 3. 9	10. 3.30	103.26m ²	4	
45	斎宮字西加座2663-2	A	山 本 博 之	個人住宅の新築	10. 3.26	10. 5.14	118.09m ²	4	

第3表 遺物観察表

第123-1次調査出土遺物観察表

No.	出土遺物	器種	法	色	調査・比較の特徴	胎	土	成	色	調	残存度	備考	登録番号
1	S D8008	土器	器	白	口縁部～内面ヨコナギ、外 面下部ヨコナギ	良好			内：本体は淡灰 灰、表面は黄褐色 外：に赤い斑	SYR7/1 SYR7/2 SYR7/3	1/20	外側剥付層 (褐色) 褐N15/0	R 3
2	S D8008	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、内側ヨ コナギ	良好			内：淡灰 外：に赤い斑	SYR6/4 SYR7/4	1/5	外側剥付層 (褐色) 褐N15/0	R 2
3	S D8008	土器	器	白	口縁部外側ヨコナギ、内側ヨ コナギ、口縁部内側ヨコナギ、 内側ヨコナギナガ	良好			内：灰白 外：淡灰	SYR7/2 SYR7/3	1/5	外側の大部分は表面が 剥げ、色斑は褐灰N3/0 に	R 1

第123-6次調査出土遺物観察表

No.	出土遺物	器種	法	色	調査・比較の特徴	胎	土	成	色	調	残存度	備考	登録番号
1	S B8007	土器	器	白	口縁部～内面ヨコナギ、外 面外側ヨコナギナガ、内側ヨ コナギ	細緻砂含む			内：浅灰 外：淡灰	SYR7/2 SYR7/4	1/3	口縁部の一領域 外側に赤土斑痕	R 2
2	S B8007	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、外側ヨ コナギ	細緻砂含む			内：に赤い斑 外：に赤い斑	SYR7/2 SYR7/3	1/4	裏部外側中央部凹む	R 3
3	S B8007	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、ツヨイナ ギ、外側ヨコナギ、内側ヨ コナギ	細緻砂多少含む			内：に赤い斑 外：に赤い斑	SYR7/2 SYR7/3	1/4	外側ハケメラ本/cm、 一箇所で落す、 内側ハケメラ本/cm 外側多様堆积層	R 5
4	S B8007	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、底部外側 ヨコナギナカタ、下手ハケ ナカタ、内側ヨコナギ ナカタ、下手ハケナカタ	砂粒含む			内：口縁部 黑 外：に赤い斑	SYR7/1 SYR7/4 SYR7/6	1/6		R 6
5	S B8007	底盤器	器	白	口縁部ヨコナギ、底部外側 ヨコナギナカタ、下手ハケ ナカタ、内側ヨコナギ ナカタ	1mm以下の砂粒 を多く含む			内：灰 外：灰	SYR7/1 SYR7/2	1/3	内面墨色堆积層	R 13
6	S B8007	底盤器	器	白	口縁部ヨコナギ、内側ヨ コナギ	細緻砂含む			内：灰 外：オリーブ風	SYR7/1 SYR7/2	1/2		R 1
7	S B8008	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、底部外側 ヨコナギナカタ、下手ハケ ナカタ、内側ヨコナギ ナカタ	細緻砂含む			内：に赤い斑 外：淡灰	SYR7/2 SYR7/3	70%	口縫2.0～2.5cm 内面に赤土粘合層 内面にサクラ木、 黒色板(?)付着	R 4
8	S B8008	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、ツヨイナ ギ、外側ヨコナギ、内側ヨ コナギ	細緻砂含む			内：口縁部 底盤 外：口縁部 底盤	SYR7/2 SYR7/4 SYR7/2 SYR7/3	上半部は赤 変形 口縫一部欠損	口縫部のみあり 口縫部にハク状痕跡 内面に赤土粘合層 内面にサクラ木 (?)付着	R 20
9	S B8007	土器	器	白	内側平行ヨコナギ、つまみ取 付、内側底部はヨコナギ、その 附近はコスモスナ	全表面、細緻砂 含む			内：赤 外：灰	SYR7/6	ほぼ完形		R 18
10	S B8007	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、内側ヨ コナギ	全表面、細緻砂 含む			内：赤 外：灰	SYR7/6 SYR7/6	口縫部～底 部1/3欠損	墨2.0～2.4cm 底径11.5～12.4cm	R 19
11	S K8009	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、外側オ ナガナ	やや粗 やや粗			内：浅灰 外：灰	SYR7/3 SYR7/1	変形		R 11
12	S K8009	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、外側オ ナガナ、内側ナガ	やや粗 やや粗			内：灰白 外：灰	SYR7/2 SYR7/4	ほぼ完形		R 12
13	S K8009	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、外側オ ナガナ	やや粗			内：灰白 外：*	SYR7/1 *	ほぼ完形		R 10
14	S K8009	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、外側ユビ ナガナ	やや粗			内：浅灰 外：灰	SYR7/3 SYR7/4	変形	口縫7.8～8.3cm	R 9
15	S K8009	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、外側ユビ ナガナ	やや粗			内：浅灰 外：*	SYR7/4 *	55% 口縫3/4		R 8
16	S K8009	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、外側ユビ ナガナ	やや粗			内：に赤い斑 外：灰	SYR7/4 SYR7/4	変形	口縫7.0～7.7cm	R 7
17	S K8009	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、底部外側 ヨコナギナカタ、下手ハ ケナカタ、内側ナカタ	やや粗 やや粗			内：に赤い斑 外：*	SYR7/4 *	1/4弱	外側剥付層 内面ハケメラ本/cm	R 25
18	S K8009	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、底部外側 ヨコナギナカタ、下手ハ ケナカタ、内側ナカタ	やや粗			内：に赤い斑 外：*	SYR7/2 SYR7/3	7/12	外側剥付層 内面ハケメラ10本/13cm	R 24
19	S K8009	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、外側ヨ コナギ	やや粗			内：浅灰 外：に赤い斑	SYR7/3 SYR7/3	40% 口縫2/3	外側剥付層、底径下半 部にサクラ木 外側ハケメラ本/cm	R 21
20	S K8009	土器	器	白	口縁部ヨコナギ、底部外側 ヨコナギナカタ、下手ハ ケナカタ、内側ナカタ	やや粗 1mm以下の砂粒 を多く含む			内：浅灰 外：灰	SYR7/4 SYR7/6	70% 口縫わざか に灰斑 砂粒3/4	外側剥付層 外側ハケメラ本/cm	R 23
21	S K8009	土器	器	白	内側～底盤外側ヨコナギ、 底盤外側ヨコナギ	砂			内：灰白 外：灰	SYR7/1 SYR7/2	60% 口縫2/3 馬高1/2	内面に自然剥付層 セミガラ底あり	R 26

No.	出土遺物	器種	法 基	調整・注法の特徴	胎 土	施 成	色 調	残存度	備 考	登録番号	
22	S K809	陶 器	口(径) (高さ) 17cm (高台径) 4.6cm	内面・体部内面ロコロナデ、 外側外周部切り波、高台點 付ナデ	やや硬	良好	内：灰白 外：*	2SY7/1 30% 高台2/3	モミガラ盛あり	R29	
23	S K809	陶 器	口(径) (高さ) 11cm (高台径) 3.5cm	内面・体部外周ロコロナデ、 高台点付ナデ	やや硬 1mm以下の砂粒 を多く含む	良好	内：浅黄 外：*	2SY7/3 25% 高台3/4	モミガラ盛あり	R30	
24	S K809	陶 器	口(径) (高さ) 2.2cm (高台径) 4.3cm	内面・体部外周ロコロナデ、 底外周部切り波、高台點 付ナデ	やや硬 1mm以上の砂粒 を多く含む	良好	内：灰黄 外：灰黄	2SY7/2 2SY7/2	西側内面に墨跡か？ 高台完存	R31	
25	S K809	陶 器	口(径)約11.4cm (高さ) 11.7cm (高台径) 約12.0cm	口輪部～体部上半ロコロナ デ下部外周部下半ロコロケズ リ、高台點付ナデ	粗	良好	内：灰黄 外：灰黄	2SY7/3 2SY6/2 20% 口輪1/4 高台残存わ ずか	直径口径31.0～31.5cm 体部内面下半使用痕あ り	R32	
26	D-20 表 土	灰 土	口(径) (高さ) 13.6cm (高台) 2.9cm (高台径) 8.6cm	Bコナデ、點付高台	良		外表面灰 以外は灰 非赤で焼 成不十分	内：灰赤 外：口輪～体部 灰赤 灰白	2SY7B/1 2SY6A/2 SY7/2 1/2	裏側内面にヘラ記号	R34

報告書抄録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせい9ねんどげんじょうへんこうきんきゅうはつくつちょうさほうこく
書名	史跡斎宮跡 平成9年度現状変更緊急発掘調査報告
副書名	
卷次	
シリーズ名	三重県多気郡明和町 斎宮跡埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	15
編著者名	駒田利治・上村安生・大川操・角正芳浩・石岡誠人・中野敦夫
編集機関	斎宮歴史博物館・明和町教育委員会
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503番地 TEL 0596-52-3800
発行年月日	1999年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市	町村	遺跡番号				
斎宮跡	多気郡明和町斎宮他	24442	210	34° 31' 55" 34° 32' 30"	136° 36' 16" 136° 37' 37"			
第123-1次 調査	斎宮字中西592					1997.12.16 ~97.12.25	45	インテロヲキ ンダ布設
第123-2次 調査	斎宮字中西・笛川					1998.01.19 ~98.02.07	188	水道管理 設
第123-3次 調査	斎宮字牛葉地内					1998.02.02 ~98.02.04	27	側溝改修
第123-4次 調査	斎宮字牛葉地内					1998.01.27 ~98.03.18	55	側溝改修
第123-5次 調査	斎宮字楽殿・刈干					1998.02.02 ~98.02.18	87	側溝新設
第123-6次 調査	斎宮字塚山3337-1					1998.02.23 ~98.03.18	407	資材置場
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
第123-1次 調査	宮殿	室町	溝、土坑		土師器、天目茶碗		旧参宮街道関連	
第123-2次 調査		飛鳥～鎌倉						
第123-3次 調査		奈良～平安	溝		土師器、山茶碗、土鍬			
第123-4次 調査		奈良～平安	掘立柱建物、溝		土師器、灰釉陶器、綠釉 陶器、土鍬			
第123-5次 調査		平安～鎌倉	溝		土師器、灰釉陶器、山茶碗、 陶器		鎌倉時代の大溝	
第123-6次 調査		奈良～鎌倉	堅穴住居、掘立柱建物 溝、土坑		土師器、須恵器、山茶碗 土鍬、砥石			

図 版



調査区全景（東から）



S D 8026 (北から)



調査区全景（東から）



S D 8030（東から）



調査区全景（西から）



S B 8032 (西から)



調査区全景（北から）



S D 8034 (北から)



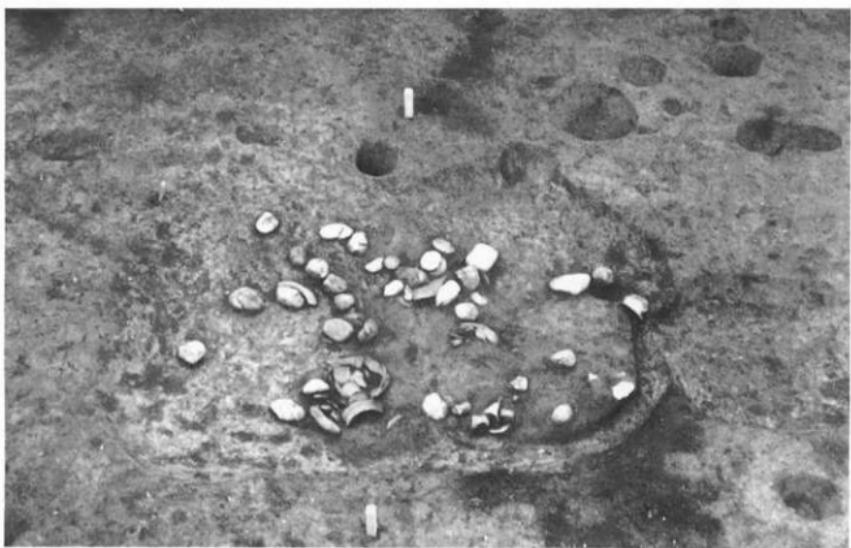
調査区全景（南から）



S B 8037（東から）



S B 8038全景（北から）



S K 8039（東から）



史跡 斎宮跡
平成9年度
現状変更緊急発掘調査報告

平成11(1999)年3月26日

編集 斎宮歴史博物館
明和町教育委員会
発行 明和町教育委員会
印刷 光出版印刷株式会社
